

## 「情報の神様」巡礼

元関西外国語大学教授  
金谷 信之

この世界には、いろいろな神様が居る。山の神、水の神から始まって、学問の神、戦さの神、豊饒の神、縁結びの神、・・・、福の神もあれば、貧乏神もある。だから、情報の神様と云うものも居る。情報の神様は、西洋ではギリシャ神話のヘルメス神、東洋ではインド仏教の中の広目天王。それらの神々をちょっと参詣して行きたい。

### 1. ギリシャ神話のヘルメス神

ギリシャ神話では、有力な神々はオリンポスの山に住んでいた。オリンポスの十二神である。その十二神の中に、ヘルメス(Hermes)と云う神がいる。ローマ神話ではメルクリウス(Mercurius)、英語ではマーキュリー(Mercury)と呼ばれる。



図1 三越日本橋本店(左)とマーキュリー像(右)  
(写真提供: 榊三越)

三越日本橋本店の正面入口には、商業の神でもあるマーキュリーの像が置かれている。写真は、大正12年に日本橋本店に設置された銅像。(現在の日本橋本店に飾られている像は、昭和47年に再現されたもの。)

神々の王ゼウス(ローマ神話ではユピテル、英語ではジュピター)の末っ子で、アトラスの娘であるプレアデス(すばる星)の七人の娘の一人マイアを母として生まれたとされている。

彼は、商業の神であり、旅人の神であり、使者の神である。そして、面白いことには、泥棒の守り神ともされている。翼の生えた靴を履いて、風よりも速く走り、手には使者の役を示す杖を持っている。神々の中で最も頭が鋭く、ずる賢く、すばしっこい神である。

泥棒の守り神だとか、ずる賢いとか云うのは、商人に対するイメージから来たものに過ぎず、この神の属性の本質は、商人、旅人、使者の三つにある。この三つの属性は、現代の感覚からすると、全く関係のない別個のもののように感ぜられるが、実はそうではなく、古代においては、この三つは同一のものの三つの側面なのである。古代において商業とは行商である。陸路をたどり、あるいは海路を越えて商品を運んだ。従って、彼らは旅人である。いや、旅をするのは殆ど商人に限られていた。それと共に、彼らは情報の運搬者であった。遠い国の出来事を伝えてくれるのは彼ら行商人であった。情報を運ぶのは彼らのみであった。彼らは情報を運ぶ使者なのである。ヘルメスの神は、古くは情報と云うものが行商人によって運ばれたことを示すのである。古くは、電信も電話もなく、情報と云うものは人から人へと伝達されるに過ぎなかった。その人もまた、自動車も飛行機もなく、ただ歩いて移動するのみであった。そして、歩く人と云えば、行商人くらいしかいなかった。だから、ヘルメスの神は情報の神なのである。

ちなみに、この神の英語名マーキュリーは「水銀」の意味でもある。捕らえようとしても逃げ出す、すばしっこい金属と云う意味で、この名を与えたと云う。米国でNASAが、1961年にオンライ

ンシステムを構築した時、これを「MERCURY」と名付けた。おそらく、この情報の神にちなんだのであろう。また、この名は太陽系の最も内側の惑星「水星」のことでもある。太陽の周囲を回る公転周期は、惑星の中では最も短い88日。しかも、地球より内側にあるので、明け方、または夕方に極く短時間しか見ることができない。そのすばしっこさから、この名が与えられた。

なお、ヘルメスはフランス語で「エルメス」と発音し、ブランド商品の名前として有名である。

## 2. インド仏教の広目天王

仏教がインドで成立する以前に現地で行われていたバラモン教などの既成信仰の中の神々を、仏教は巧みに取り入れて、仏教を護る護法神としていた。それらが、いわゆる天部である。中でも四天王は須弥山しゆみせんの中腹に住して、頂上にある帝釈天たいしやくてんの喜見城を守る天部の四人の天王で、東方を護るのが持国天、南方を護るのが増長天、西方は広目天、北方は多聞天たもんてん（毘沙門天）が護るとされている。すなわち、四天王は仏国土の四方を守護する鎮護国家の武将たちである。従って、寺院の須弥壇では、その四隅に四天王像が立てられる。四天王はすべて甲冑で身を固め、岩の上に立つか、もしくは邪鬼を踏んで立ち、それぞれに剣や鉾、槍、棒などの武器を持っている。ところが、これらのうち、西方守護の広目天だけは違っている。武器は持たず、右手に筆、左手に巻物（卷子）を持つ。有名な東大寺戒壇院の四天王像では、広目天は目を細め、厳しく眉根を寄せ、遙かなる草原の彼方の遠方を窺うかのように凝視している。

広目天は梵語では「ピルバクシャ」。直訳すると「通常ならざる目を持つ者」となるそうだが、その意味は千里の遠くをも見通す者と云うことだろう。

それやこれやで、広目天は仏教における情報の神だと思われる。中国では孫子が、その兵法の書の中で「敵を知らざれば百戦危うし」と述べて、戦における情報の重要性を強調しているが、情報の重要性は何も中国のみのことではない。インドで生まれた仏教も、仏国土守護の四天王の中に広目天を配して、そのことを暗に示しているように思われる。



図2 国宝 広目天像（東大寺 戒壇院）  
（写真提供：奈良国立博物館）

「最も好きな仏像は？」と訊ねた時、ある女性がためらうこともなく「東大寺戒壇院の広目天」と答えたのを私は覚えている。たしかに、あの広目天の顔容はすばらしい。その像には人を引き付けて離さないものがある。あの眼差しは人間の心の奥の闇を凝視するものかも知れない。

歌人の会津八一は、自註鹿鳴集の中に  
「びるばくしや まゆねよせたる まなざしを  
まなこにみつ つ あきの のをゆく」  
と云う名歌を載せている。

（註）広目天の像に2種類があるようで、索や槍を持つものも時には見かける。

### 参考文献

- 1) 山室静 『ギリシャ神話』(教養文庫)社会思想社, 1981年
- 2) B. エグスリン(小林稔訳) 『ギリシア神話小辞典』(教養文庫)社会思想社, 1979年
- 3) 入江泰吉・青山茂 『仏像』(カラーブックス)保育社, 1966年